

乾かせ、梅雨時日本列島

研究開発部
宮木 由貴子

そろそろ本州も梅雨である。この季節の悩みの種は何といっても湿気だ。東京の7月の平均湿度は76%(図表1)。各国の都市と比べても特別湿度が高いわけではないが、とにかく日本の湿気は不快だ。ふる場などの水回りを始め、家中がジメジメしてくる。うっかり室内にものを干しておくと、悪臭がする上にタンスの裏や押し入れなどにまでカビが生えるケースもあるというから油断ならない。そこで注目されるのが、家庭用の衣類乾燥機である。

<乾燥機の効果 = 乾かす + >

現在、衣類乾燥機の普及率は21.7%となっている(図表2)。乾燥機の売れる時期は梅雨時かと思いきや、新生活の始まる4月なども多く、必ずしも季節的な影響ばかりをうけるわけではない。というのも、衣類乾燥機は、天候の悪いときや湿度の高い季節の乾燥用としてのみならず、多様な面から支持されているからだ(図表3)。夜間に洗濯をする家や、洗濯物が大量で干しきれない家、ベランダがない家や交通量が多く排気ガスが気になって外に干せない家、来客の多い家、また外に洗濯物を干すのが物騒な一人暮らしの女性などに、年間を通じて重宝されている。また、夫婦共働きが増加し、多忙化が進む中で、洗濯にかかわる家事時間の短縮にも貢献している。最近では、洗濯から乾燥まで全自動という一体型の機種の人気も高い。その他、天日干しよりシワもなくふんわり仕上がる、花粉症の季節に洗濯物を外に干さずに済む、温風での乾燥で除菌ができるなど、乾かすだ

けではない、乾燥機ならではの効果もキーになっているのである。

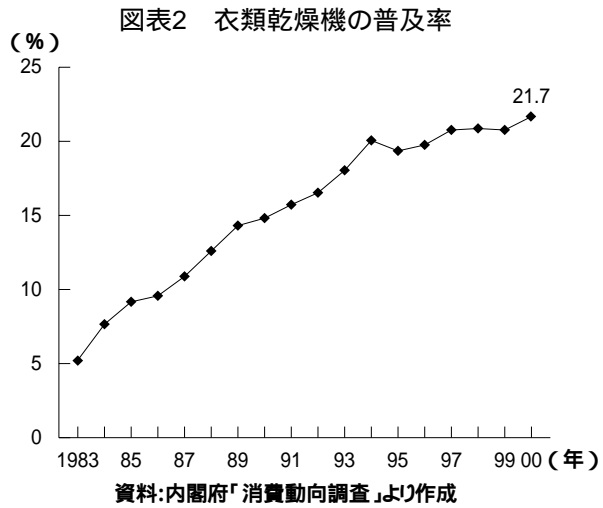
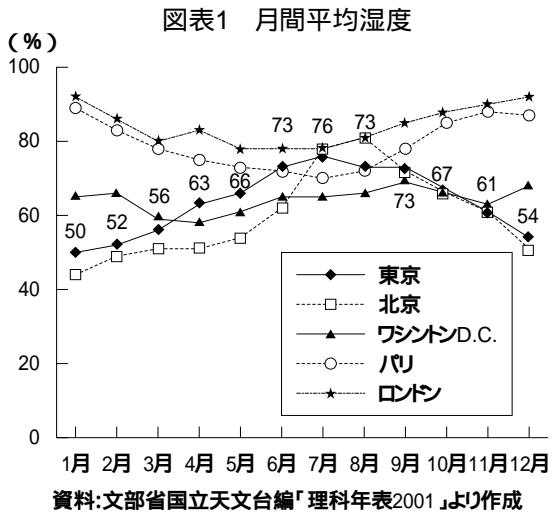
さらに、浴室乾燥機も注目を集めている。これは、ふる場の浴室換気扇を取り替えて温風を出すことで浴室を衣類乾燥機としても使えるようにするものだ。洗濯物を乾かせることに加え、暖房機能もあることから、特に高血圧者等に危険とされる冬場の入浴時にも活躍し、高齢者のいる世帯などで重宝されている(図表4)。

<時間とコスト>

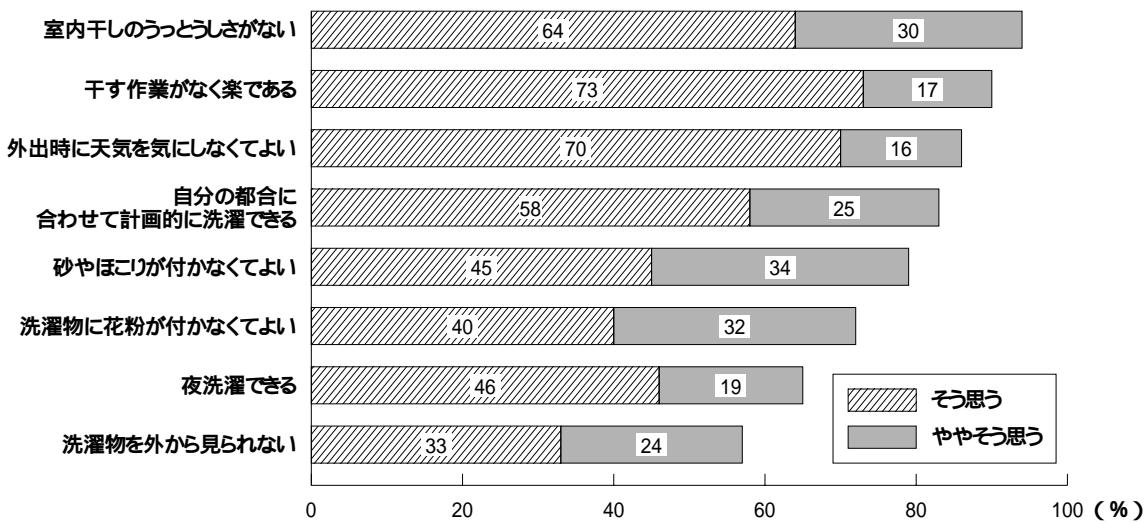
ただ、気になるのは時間とコストだ。乾燥機での乾燥は意外に時間がかかる。乾燥機には電気式とガス式があるが、国民生活センターの調べ^{*1}によると、表示乾燥容量(4.0kg)のワイシャツ、パジャマ、下着類などの衣類を脱水直後に標準コースで乾燥させたところ、乾燥時間は電気式が3時間以上であるのに対して、ガス式は電気式の約3分の1の時間で済んだという。コストは電気式が80円前後、ガス式は50円に満たないとの結果だった。早くて安いという点ではガス式が勝るが、タイマー機能などを使って、電気式も深夜料金で安く利用するという手がある。また、ガス式は室内に湿気を排出しないというメリットもあるが、ガス配管等、設置に手間がかかり、排湿筒が不要で設置が簡単な電気式に比べて面倒な面もある。

いずれにせよ、乾燥機は数万~10万円前後と価格の差はあるものの、初期投資がそれなりに高い。乾燥機を持っていない人は、ドライヤー等でしのぐこともあるそうだが、家の壁の張り替えやカビとりの手間やコストを考えると、臭い思いや不愉快な思いをしない分、長い目でみれば乾燥機の方が割安といえるかもしれない。

注)*1 2000年9月公表



図表3 衣類乾燥機利用者の評価(フル乾燥で週1回以上使う人)



図表4 浴室暖房機能の利用(年代別)

